

第4節 図書館の運営状況に関する情報提供の事例調査

事例11 鳥取県立図書館

1 図書館の概要

図書館名	鳥取県立図書館
所在地 (本館)	鳥取県鳥取市尚徳町101
設置者	教育委員会
運営者	教育委員会
総職員数(H20.4) (うち司書職員数)	40名(うち司書職員数 31名)
蔵書総冊数	879,874冊
貸出登録者数	102,414人

鳥取県立図書館



2 調査結果の要旨（ポイント）

1. 鳥取県は、県の重点事業の一つに「知の地域づくり」を掲げ、図書館事業に力を入れている。平成17年度に「鳥取県立図書館の目指す図書館像」を策定し、平成18年3月には、県民から募集した意見も参考にして、今後の図書館像の実現のための具体的な施策を盛り込んだアクションプランを策定している。「仕事と暮らしに役立つ図書館」事業として、ホームページおよびメールマガジンの利用推進に力を入れており、多くの住民が抱える生活上の問題解決に役立つ踏み込んだ情報提供を行っている。
2. メールマガジンに掲載している情報のうち、仕事や暮らしに役立つコラムは、1年間分の予定を全職員が分担して執筆しており、年間2回ほど各自がコラムを担当している。原稿締切日は、原則、メールマガジン送信日の3日前としている。編集作業は、資料課の1名が専任として全てを担当している。また、編集後の内容チェックは3名で行っている。
3. メールマガジンは、新着図書情報、鳥取県立図書館の講座・講演会・行事等の案内をお知らせ、仕事や生活に役立つ話題等の内容構成になっている。最近、図書館として力を入れている会社関係、商業向けを対象としたビジネス支援の情報提供を行うために、職員5名が関わっている。
4. 「鳥取県立図書館の目指す図書館像アクションプラン」を実現するため、県民の図書館利用の状況や考え方あるいは今後の図書館に求められる取り組みをアンケート調査で把握し、図書館サービスの向上に役立つ取り組みも行っている。アンケート結果から、健康情報に関する利用者ニーズが強いことがわかり、健康情報サービス提供事業を開始することになるなど成果が出ている。
5. 鳥取県立図書館の今後の図書館像の実現に向けて、一般的な資料に加え、県民が情報提供を望んでいる行政・医療・法律等の情報について、司書がより高い専門性を身につけていくことが必要であり、どのように進めるかが今後の課題として指摘されている。

3 情報提供の概要

(1) 情報提供の背景、問題意識等

鳥取県では、元知事が「知的立国」を唱え、県の重点事業の一つに「知の地域づくり」を掲げ、図書館事業に力を入れている。平成 17 年度に「鳥取県立図書館の目指す図書館像」を策定し、平成 18 年 3 月には、県民から募集した意見も参考にして、今後の図書館像の実現のための具体的な 6 つの施策を盛り込んだ「鳥取県立図書館の目指す図書館像アクションプラン」を策定した。

その中の一つである「仕事とくらしに役立つ図書館」を達成する手段として、ホームページおよびメールマガジンを利用した情報発信に積極的に取り組んでおり、平成 18 年度から開始した当図書館の特徴ある取り組み（以下の 3 つのサービス提供事業）は、住民や利用者から好意的に受け取られている。

a. 平成 16 年度からビジネス支援事業を開始

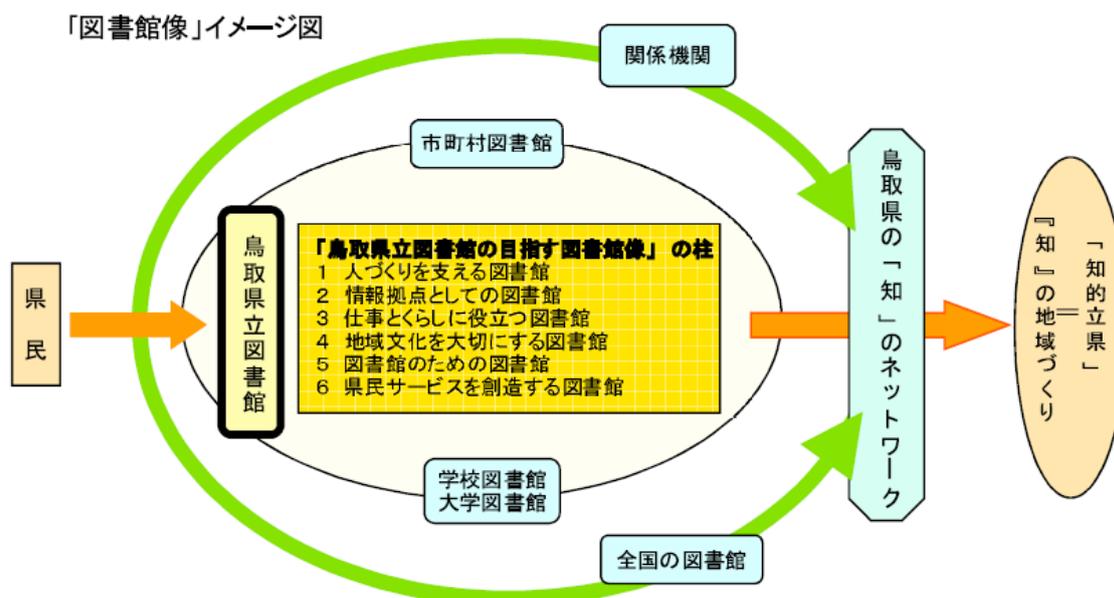
- ・ 様々な分野の産業支援機関と協力関係を構築し、協働して数多くの事業を展開
- ・ 館内での就職情報の提供及び高等学校図書館と連携して県内企業に関する情報提供
- ・ 企業家教育プログラムの開発
- ・ 主なサービスの形態
 - 定例相談（企業、特許）、各種セミナー・講座の開催、出前図書館、県内のハローワークの就職情報の提供等
- ・ 鳥取商工会議所、鳥取県商工会連合会、(財)鳥取県産業振興機構、(地独)鳥取県産業技術センター、国民生活金融公庫、ハローワーク等

b. 健康情報サービス提供事業

- ・ 「県民のための健康情報サービス委員会」の設置
- ・ 闘病記文庫の設置
- ・ 地元の医師会と連携し、医師・看護師・患者等の様々な立場の人や期間と協力し
 - 「県民のための健康情報サービス」の提供
- ・ 主なサービスの形態
 - 各種セミナー・講座の開催
- ・ 主な協力機関
 - 患者会、県医師会、県看護協会、鳥取大学医学図書館、県立中央病院、県福祉保健部

c. 法情報サービス提供事業

- ・ 「法情報サービス委員会」を設置
- ・ 主なサービスの形態
 - 各種セミナー・講座の開催、館内スペースを活用した展示
- ・ 主な協力機関
 - 県弁護士会、鳥取地方裁判所、鳥取地方検察庁、鳥取大学、県総務部、法務局、消費生活センター、法テラス等



(2) 情報提供の実施手順

メールマガジン（毎週金曜日に送信）は、平成14年度に10冊程度の新刊図書紹介としてスタートしたが、これまで情報の種類および情報量ともに増やしてきた。新着図書紹介情報は関連データベースから取り込んでいる。セミナー・講座の情報提供は年間スケジュールに基づき情報提供している。仕事や暮らしに役立つコラム作成に関しては、次年度1年間分の予定を全職員が分担しており、年間2回ほど各自がコラムを担当している。原稿締切日は、原則、メールマガジン送信日の3日前としている。編集作業は、資料課の1名が専任として全てを担当している。また、編集後の内容チェックは3名で行っている。

(3) 情報提供の内容

メールマガジンは、新着図書情報、鳥取県立図書館の講座・講演会・行事等の案内をお知らせ、仕事や生活に役立つ話題等の内容構成になっている。最近、図書館として力を入れている会社関係、商業向けを対象としたビジネス支援の情報提供を行うために、職員5名が関わっているが、ビジネス支援の情報提供をメールマガジンでも行えないか検討を行っているとのことである。

ビジネス支援事業の中では、出前図書館に力を入れており、遠隔地で開催される講座・セミナー等の会場において図書館の利用案内を行うとともに、その場で利用者登録を行い、持参してきた100冊ほどの本の貸出や資料の複写サービス等の提供を行っている。3名程度の職員が年間100ヶ所ほど出張している。利便性が高くなった図書館事業の状況を未利用者に理解してもらうことに大いに役立っているとのことである。

(4) 情報提供結果の反映方法

「鳥取県立図書館の目指す図書館像アクションプラン」を実現するため、県民の図書館利用の状況や考え方あるいは今後の図書館に求められる取り組みをアンケート調査で把握し、図書館サービスの向上に役立つ取り組みも行っている。アンケート結果から、健康情報に関する利用者ニーズが強いことがわかり、健康情報サービス提供事業を開始することになるなど成果が出ている。

(5) 情報提供の課題

鳥取県立図書館の今後の図書館像の実現に向けて、一般的な資料に加え、県民が情報提供を望んでいる行政・医療・法律等の情報について、司書がより高い専門性を身につけていくことが必要であり、どのように進めるかが今後の課題として指摘されている。

また、これまでのアンケート調査において、最も多かった利用者の要望は、「仕事や生活に役立つ資料・情報の提供」である。

事例 12 岐阜市立図書館

1 図書館の概要

図書館名	岐阜市立図書館（本館ほか7館）
所在地 （本館）	岐阜市八ツ寺町1-7
設置者	教育委員会
運営者	教育委員会
総職員数(H20.4) （うち司書職員数）	47名（うち司書職員数 34名）
蔵書総冊数	539,277冊（うち本館：195,939冊）
貸出登録者数	-（直近5カ年の年度ごとの新規登録者数のデータしかないため）

岐阜市立図書館



本館



JR岐阜駅ビル1F（中高生向け）分館

2 調査結果の要旨（ポイント）

1. 平成 14 年に中高生の利用拡大を目的に、J R 岐阜駅ビル 1 階の「ハートフルスクエア G」に分館を設け、ヤングアダルトコーナーを設置した。平成 19 年には中高生向けの図書館だよりに相当する「ライブラリーレター」を刊行し、読者階層を明確に分ける 3 種類の図書館だよりを作成している。この図書館だより 3 紙は、岐阜市立図書館全体の利用促進を図っている。また、子供の活字離れを危惧し、平成 14 年度から中高生版・幼児版の読書推進のためのお薦め本のリスト作成に力を入れている。
2. 3 種類の図書館だよりは、図書館サービス・グループが中心となって作成している。本館では、児童・一般それぞれ 1 名の担当職員（司書）を配置しており、ヤングアダルト関係は分館の司書 2 ～ 3 名が交代して担当する体制となっている。イベント関連の情報発信には、市民ニーズの把握や関係部署が管理するイベント開催情報に関して連絡調整を行うことが必要であり、連絡調整・編集・校正を 2 名で行っている。
3. 図書館だよりの工夫点は、a. 新刊書等の内容紹介は、文字数を減らし、こちらの意図をストレートに表現するために、担当者は紹介本を全て読み自分の言葉で表現している。b. 本への興味は本の表紙からはじまるので、出版社・著作権者の許可をとり、表紙の絵を掲載している。c. 紹介する本の分類が偏らないようにするなどを心掛けている。
4. 情報提供結果の反映状況について、情報提供に関する個別の意見や感想を謙虚に受けとめて、情報提供に反映するように心がけているが、多くの利用者の満足度についての把握がなされていない点が課題として指摘されている。
5. 図書館だよりやお薦め本リストに掲載する表紙絵に関して著作権者の許可をとる必要があり、その許可待ちの時間が長くなることが問題点として指摘されている。

3 情報提供の概要

(1) 情報提供の背景、問題意識等

<図書館だより刊行の背景>

平成 14 年に中高生の利用拡大を図るために交通の利便性を考慮して J R 岐阜駅ビル 1 階の「ハートフルスクエア G」に分館を設け、ヤングアダルトコーナーを設置した。平成 19 年 5 月には中高生向けの図書館だよりに相当する「ライブラリーレター」を刊行し、読者階層を一般、中高生、児童の 3 つに分けて 3 種類の図書館だよりを発行する形態となった。岐阜市立図書館全体の利用促進を図っている。

また、子供の活字離れを危惧し、平成 14 年度から中高生版・幼児版の読書推進のためのお薦め本のリスト作成に力を入れている。

地元の繊維産業等のビジネス支援のための「Fashion」やビジネス支援セミナーの内容にタイアップさせた「ビジネス支援情報リスト」等も合わせて刊行している。

(2) 情報提供の実施手順

<情報誌制作の体制>

3 種類の図書館だよりは、図書館サービスグループが中心となって作成している。本館に専任で 1 名の職員（司書）を配置しており、ヤングアダルト関係は分館の 2～3 名が交代して担当する体制となっている。イベント関連の情報発信には、市民ニーズの把握や関係部署が管理するイベント開催情報に関して連絡調整を行うことが必要であり、連絡調整・編集・校正を 2 名で行っている。

<情報誌制作の手順概要>

定期刊行する図書館だよりのような印刷物は、配布日の 2 週間前までに館長決済をもらえるようにスケジュールを逆算して原稿収集、編集・校正を行っている。また、平成 20 年 6 月から本庁の専用設備でカラー印刷が可能になったことから、原稿データを持ち込んでカラー印刷しているとのことである。

一般向けの図書館だよりは、全館に配布する。児童向けは、全館 500 枚および小学校 50 校×30 枚で計 2000 枚、中高向けは、全館および中学・高校で計 1500 枚を配布している。

(3) 情報提供の内容

<図書館だよりでの制作方針>

図書館だよりの制作にあたっては、以下のような点に工夫している。

- a. 新刊書等の内容紹介に興味をもってもらうために、文字数を減らし、こちらの意図をストレートに表現することを心掛けている。そのために、担当者は紹介する本を全て読み、自分の言葉で表現するようにしている。
- b. 本への興味は本の表紙からはじまるので、出版社・著作権者の許可をとり、表紙の絵も一緒に掲載する。
- c. 紹介する本の分類が偏らないように注意するとともに、一般向けでは高齢者を意識している。
- d. ホームページの作成にあたっては、視覚障がいの利用者が読むことにも配慮し、利用者の意見を聞きながら、文字の色や背景の色などの配色に配慮している。

<お薦め本のリスト作成の方針>

小学生版・中高生版・幼児版のお薦め本のリスト作成については、積極的に取り組んでいる。教科書で取り上げられているもの、国が推薦する本は必須とし、市立図書館の司書全員でパスファインダー形式をとり関係づけられる本を探し、各自が本を読んで進める本とその推薦理由を作成して回収作業を2年間ほど継続して実施している。また、幼児用お薦め本のリストについては、初めてこどもを持たれる母親向けの（読み聞かせる）良い本の紹介を中心に行っている。

(4) 情報提供の課題

情報提供結果の反映状況について、情報提供に関する個別のご意見や感想を謙虚に受けとめて、情報提供に反映するように心がけているが、多くの利用者の満足度についての把握がまだなされていない点が課題として指摘されている。

また、図書館だよりやお薦め本リストに掲載する表紙絵に関して著作権者の許可をとる必要があり、その許可待ちの時間が長くなることが問題点として指摘されている。

事例 13 財団法人金森和心会クローバー子供図書館

1 図書館の概要

図書館名	財団法人金森和心会クローバー子供図書館
所在地	福島県郡山市開成 6-346-1
設置者	財団法人金森和心会
運営者	財団法人金森和心会
総職員数 (H20. 4) (うち司書職員数)	3名 (うち司書職員数 0名)
蔵書総冊数	21,389 冊 (児童図書 : 16,652 冊、一般図書 4,737 冊)
貸出登録者数	869 人

財団法人金森和心会クローバー子供図書館



2 調査結果の要旨（ポイント）

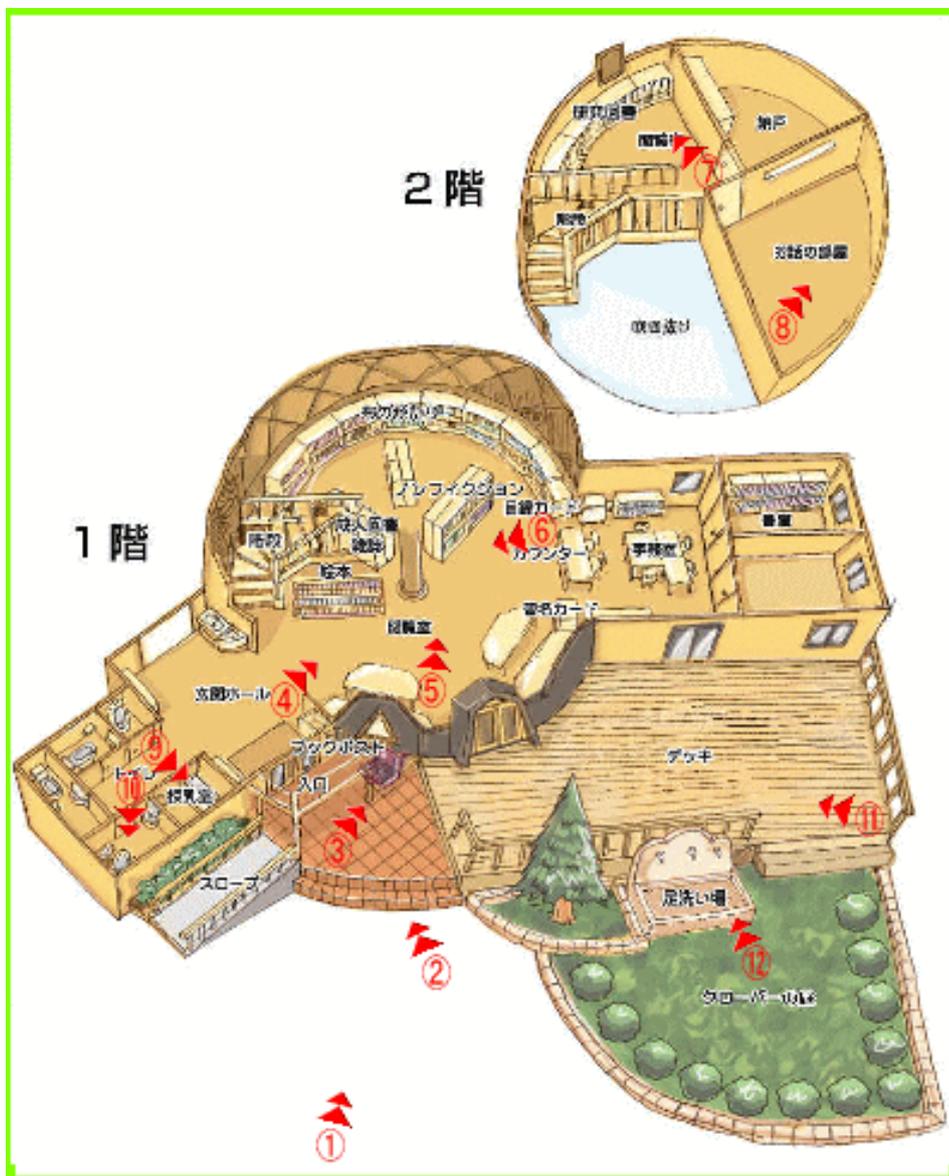
1. 地域住民や病院関係者に図書館の活動状況を知ってもらうために、「クローバーつうしん」という図書館報による情報提供を行っている。
2. 「クローバーつうしん」は、年間4回刊行している。病院関係者に寄稿を依頼する巻頭言は刊行月の2～3ヶ月前に原稿作成を依頼、その他は刊行月の2週間前までに職員全員（3名）で協働して1ヶ月ほどで作成している。配布先は、金森和心会の2病院、県内の図書館、県外の図書館（東京こども図書館、日比谷こども図書館他）、小学校、幼稚園、当館等である。配布部数は200部となっており、その他にホームページにも掲載している。
3. 「クローバーつうしん」は、前面は病院の関係者（ドクター、看護師など）に読書に関連した巻頭言の寄稿をお願いし、裏面には開館日・開館時間の案内や寄贈図書の紹介、今後のイベントのおしらせ、開催済みのこども向けイベントの状況などを掲載している。
4. 「クローバーつうしん」の内容は、主に大人向けの内容が多いが、イベントの紹介など子ども向けの内容もあり、予算や人員面での制約がある中で、どうすれば効果的に情報を伝えられるかが課題として指摘されている。

3 情報提供の概要

(1) 情報提供の背景、問題意識等

<図書館創設の経緯>

本図書館は、昭和 27 年に精神科病院の経営者であった創設者（現理事長の祖父）の娘が、自身が所有する本をもとに家庭文庫を創設したことにはじまっている。子供達の楽しみに少しでも文化的なものを提供したいとの意志により設立され、昭和 38 年に私立病院を財団法人に変更する際、公益事業になる図書館事業として財団法人の事業に含めている。図書館が老朽化したため、1999 年に当図書館を休館にしたが、再建を希望する多くの地元民の署名活動があり、2008 年に現在の場所で新たな図書館として再開された。



<図書館を維持する意義>

昔から地域に密着した図書館として多くの子ども達に利用されてきたが、県や市からの補助はなく、3名の職員と少ない予算で図書館を運営している。この地域で病院経営を行うことに対する地域住民の理解を得るためにも、地域の子どもたちに図書館を開放する意義は大きいと判断しているとのことである。

地元の方や病院の患者の方が主に利用しており、平成19年度の図書館利用者数は7,516人とのことである。

地域住民や病院関係者に図書館の活動状況を知らせるために、ホームページの他に「クローバーつうしん」という館報による情報提供を行っている。昭和28年に「クローバー子供新聞」としてスタートし、図書館の休館により一時中断したが、図書館のリニューアルに伴い「クローバーつうしん」に名を変えて館報の発行を続けている。

(2) 情報提供の実施手順

「クローバーつうしん」は、年間4回刊行する季刊誌である。作成のスケジュールは、4月に刊行する場合、1月～2月末までに病院関係者に巻頭言の原稿作成を依頼し、刊行月の2週間前の3月15日までに全原稿を集めている。仕事の合間をみながら、職員全員（3名）で共同し、1ヶ月かけて作成している。配布先は、金森和心会の2病院、県内の図書館、県外の図書館（東京子ども図書館、日比谷子ども図書館他）、小学校、幼稚園、当館等となっている。印刷は、病院のカラーコピー機を利用しており、配布部数は200部となっている他、ホームページにも「クローバーつうしん」を掲載している。

(3) 情報提供の内容

「クローバーつうしん」は、前面は病院の関係者（ドクター、看護師など）に読書に関連した巻頭言の寄稿をお願いし、裏面には開館日・開館時間の案内や寄贈図書を紹介、今後のイベントのおしらせ、開催済みの子ども向けイベントの状況（写真を交え）などを掲載している。

(4) 情報提供の課題

「クローバーつうしん」の内容は、主に大人向けの内容が多いが、イベントの紹介など子ども向けの内容もあり、予算や人員面での制約がある中で、どうすれば効果的に情報を伝えられるかが課題となっている。

また、図書館の開館日時は火曜日～金曜日および第1・3土曜日の午後1時～6時であるため、一般の図書館より開館日数や開館時間が短く、利用時間を増やしてほしい要望があるが、図書館内部は全て開放されて別室もないために職員の昼食や休憩する場所もなく、職員3名の体制では人員配置が難しくなっている。予算も職員も少ないため、公立図書館のように行き届いた新しいサービスが出来ないことが悩みとなっているとのことである。